

五條支部研修見学会報告

今回の研修会も去年と同様に、重伝建に関する伝統的建築物の工法である、瓦葺き（土居葺き）・漆喰塗り壁等の工法に関して大規模ではあるが、国宝姫路城の平成大修理を見学に行きました。

前日までの雨はすっかり上がり五條支部は晴れ男が多いな・・・
と思いながらバスは一路 姫路へ

研修会前日の新聞に築城中に当初計画された天守部分の四隅の窓を内部から板を張ってくさびで固め、外部を漆喰で埋めた窓枠が現れたとの記事を読み興味深く修理見学を心待ちにしていました。

昭和の大修理から45年ぶりの修理とあって巨大な素屋根を作り文化財保護、保存修理に対する啓発やPRを行うとともに、世界遺産姫路城の価値を広くアピールするために工事現場を見学できるよう見学者用スペースとエレベーターを配置し修理工事の様子や大天守の上層部の外観を間近に見られるような構造となっています。

見学スペースには保存修理の作業プロセスや作業状況などを、復元模型・図解・写真を用いて紹介していました。

新聞記事の隠されていた窓枠は、耐震性を高めるために窓を減らし耐震壁の役割をしていたようである。大天守の屋根はかなりの荷重があり、その必要性はありそうだと少し納得しながら見学スペースをあとにしました。

今回の研修見学会を通じて伝統的技術の継承、伝統的工法の難しさを再認識しました。

何か今後の仕事に役立てられればいいな一と思っています。

穏やかな晴天の中研修見学会は無事終了しました。



(記：五條支部 岡本 光弘)